

非漢字圏の学習者に対する漢字教育

—大学での日本語補習課程における試み—

川口さち子（聖学院大学）

s_kawaguchi@seigakuin-univ.ac.jp

1. はじめに

大学では、講義を聴いてノートをとるばかりでなく、必要な情報を自分で調べ、まとめて、口頭や文章で発表する力が要求される。そのためには、自律的に学習できる力を身につけておく必要がある。

そこで、筆者の勤務する聖学院大学では、授業を履修するには日本語力が足りない正規学部留学生のために 2008 年度より日本語補習課程として予備課程を設置した。このコースは、原則として 1 年間日本語のみを学ぶコースで、学部課程は残り 3 年間で修了させるものである。

2008 年度は、漢字圏の学生、非漢字圏の学生ともに在籍したが、2009 年度からは、コミュニケーション力はある程度あるが、漢字が弱いため、通常課程で学部の授業についていくのが困難とみられる非漢字圏の学生を対象を絞るようになった。これらの学生は、日本語学校や専門学校を経てきた学生で、すでに少なくとも中級レベルまでは学習している学生であるが、漢字力が弱いため、ものを読んだり、書いたりしていくことが苦手な学生である。主に非漢字圏の学生であるが、韓国の学生も含まれる。石田（2007 p.41）によれば、「日本語の聴解力のテスト、漢字の書き方のテスト、漢字の読みかたのテスト、構文・読解力テストを行い、各テストと総得点との関係を見ると、漢字系・非漢字系を問わず、常に漢字の読みかたのテストともっとも相関関係が高い」ということである。また、「クラスター分析の結果、漢字の書き方テスト—漢字の読みかたテスト—語彙問題の間に類似性を示す言語群がみられることから、語彙力との関係は確かめられている」ということである。

このことから、大学での授業についていくためには漢字力が大事であるということが分かる。

本稿では、この予備課程において、漢字力をつけ、さらに自律的な力をつけていくために、どんなカリキュラムを設定し、どんな工夫をしたか、その成果はどうであったかについて述べる。

2. 予備課程の学生について

先に述べたように 2008 年度は、漢字圏（特に中国）の学生、非漢字圏の学生ともに在籍したが、2009 年度からは予備課程に在籍するのは、非漢字圏の学生（韓国人学生を含む）が中心になった。2009 年度・2010 年度に在籍した学生の国籍は、以下のとおりである。

◇2009 年度：ベトナム人 6 名・バングラデシュ人 1 名・ネパール人 1 名・タイ人 1 名・韓国人 1 名、計 10 名（うち、女子 2 名。途中退学 2 名）

◇2010 年度：ベトナム人 1 名・スリランカ人 2 名・マレーシア人 1 名・ミャンマー人 1 名・韓国人 1 名、計 6 名（うち、女子 2 名）

本稿では特にカリキュラム改訂を行った 2010 年度の漢字の授業について述べたい。この年度の学生のバックグラウンドは、以下のとおりである。

■ 日本滞在歴と国籍（アルファベットは、学生名の代わりに使用）

A: 4 年（ベトナム）

- B : 3年6カ月 (ミャンマー)
- C : 5年 (スリランカ)
- D : 5年 (スリランカ)
- E : 1年6カ月 (韓国)・
- F : 1年6カ月 (マレーシア。中国系)

・マレーシアのFおよび韓国のEを除く4名は、日本滞在が長いにもかかわらず、漢字力が弱い学生である。ミャンマーの学生によると、日本語学校では初級までは、漢字を授業で学習する時間があるが、中級になると、各自の努力にまかされ、中級レベルの漢字は、あまり覚えられなかったということである。日本語学校で、特に非漢字圏向けのクラスを設定していないところでは往々にしてこのようなケースが多いようである。

3. 予備課程のカリキュラムについて

予備課程のカリキュラムは、週14コマで1コマ90分授業である。

2009年度の春学期・秋学期のカリキュラムと2010年度春学期のカリキュラムは、以下のとおりである。

- 2009年度春学期：「総合/文法復習」5コマ・「漢字」3コマ・「表現法」4コマ・「読解」1コマ・「聴解/発音」1コマ
- 2009年度秋学期：「総合」5コマ・「漢字」3コマ・「表現法」2コマ・「表現文法」2コマ・「読解」1コマ・「聴解/発音」1コマ
- 2010年度春学期：「総合」6コマ・「漢字」4コマ・「表現法」3コマ・「文法」1コマ

2010年度からは、漢字の時間を一コマ増やし、基礎漢字セッションと復習・応用漢字セッションに分けた。

3-1-1. 漢字授業の内容

◇2009年度春・秋学期：漢字3コマ

教科書は、*Kanji in Context* <西口ほか(1994)>(1947字収録)を使用し、教科書の「第1水準」の始めから1コマ10字ずつのペースで進んだ。

漢字教材はいろいろあり、テキストに付属する漢字教材や、ストーリーで覚えさせる漢字<ボイクマンほか(2008)>、日常生活と大学生活とに分けて学習する教材<佐藤(2008)>などがあるが、*Kanji in Context*は、中・上級用教科書で、辞書的にも使えることから、将来、学部で未知の漢字に出会ったときも、自律学習が可能で、自分で調べられる利点があるのでこれを採用した。すなわち、このテキストは、巻末に音訓索引・字形索引・総画索引(字形でさがすことが難しい漢字索引用)・語彙索引がついており、特に字形索引では、漢字の構成要素を、その位置から「レフト」「ライト」「トップ」「ボトム」「トップ・レフト」「トップ・ライト」「レフト・ボトム」「エンクロージャー」に分け、部首名が分からなくても引けるようになっている。

◇2010年度春学期：漢字4コマ

3コマ：上記教科書「第1水準」のNo.221から

1コマ：復習/応用漢字。第一水準のNo.1～No.220は、復習漢字として扱った。

3-1-2. 2010年度の漢字授業の詳細

■ 漢字 3 コマ (基礎漢字)

学生たちは、日本語学校では中級レベルの教科書まで学習しているが、漢字は初級レベルも十分に書けていなかったため、初級レベル後半から扱った。

■ 漢字 1 コマ (復習・応用)

Kanji in Context の No.1~220 を復習として扱った。そのほかにいろいろな活動を行った。

3-2. 「基礎漢字」セッション

基礎漢字セッションでは、1コマ10字を導入 することとした。

■ 授業の流れ

1. 「漢字シート」【図1参照】で導入。ストロークは空書で行い、指名して、黒板で水筆書きも行った。また、別に筆ペンで漢字シートに書かせるようにした。
2. テキストの語彙説明
3. 漢字シートの漢字に振り仮名をふらせる
4. 該当漢字を含む漢字語彙を使って短作文
5. 「漢字練習プリント」【図2参照】で、漢字語の読み練習および、特定の文脈に適切な漢字語彙を選ぶ練習をさせた。

(この教科書には漢字ワークブックがついているが、非漢字圏の学生には使用語彙が難しすぎるため、独自の漢字シート、漢字練習プリントを作成した)

「漢字シート」の具体例 (図1)

No.	漢字	オン(音)・ くん(訓)	漢字語彙 *印は書けなくていい漢 字語彙
261	咲	さ(く)	咲く() 返り咲く()
262	置	ち お(く)	置く() 置物() 物置() *位置()スル

263	勝	ショウ	勝つ()
		か(つ)	勝る()
		まさ(る)	*優勝()スル
			勝者()
			連勝()スル
			勝利()スル

(図 2)

261	咲						
262	置						
263	勝						

上の漢字シートでは、テキストを見ながら、読みかたを入れ、その後ストロークを教師とともに確認し、練習を行う。そのあと、線の引いてあるところに、その漢字のいった漢字語彙を使っ

て作文を行う。

漢字練習プリント例 (図3)

漢字練習プリント (241—250) 名前 _____

I. 中の漢字にふりがなをふりなさい。

それから、 中の漢字から適当なものを選んで、() に入れなさい。必要なら ひつよう 形 かたち を変えなさい。

A.

理解	気に入る	親しい	切れる	親友
人気	好み	心理学	利益	左利き

1) 彼の () の色のネクタイがあったので、買ってプレゼントしてあげたら、とても () ようだった。

2) () とよべるような () 友達は、一人もいない。

3) () の授業はむずかしくて、ぜんぜん () できない。

4) 私は () なので、いろいろ不便なことがある。

5) 夜遅く () のない道を歩くのは おそ 怖い。

6) 不況のせいで、会社の売上げが減少し、() もほとんどないほどだ。

7) あの人は、頭の () 人だ。

3-3. 復習・応用漢字セッション

■ No.1~220 の漢字をいろいろな角度から学習

1. テキストの使い方 の導入

読み・意味が分からない未知の漢字の調べかた；部首などの構成要素を漢字内部の位置で「トップ」「ボトム」「レフト」「ライト」「トップ・レフト」「レフト・ボトム」「トップ・ライト」「エンクロージャー」と名付け、その位置での字形索引があるので、その調べ方の練習を行った。

2. No.1~220 の漢字を使って復習 (4/22)

1) 反対の意味の漢字 (形容詞) を書く。同じ仲間を探す。

(「読む・聞く・書く・話す」「食べる・飲む」など)

2) 「漢字マップ」の作成で語彙を広げる。「漢字マップ」の具体例は、【図6】参照。

トピックは、「道」(4/22)・「ともだち」(5/13)・「駅」(6/3)。

漢字マップでは、まず中心になることばを真ん中に置き、そこから連想することばを書かせる。これらのことばは、最初はひらがなで書いてもよい。そのあと、どのことばを漢字

にしたいかを聞き、教師が教えるか学生が辞書を引くかして漢字にする。それから、どのラインのまとまりで文を書きたいか選ばせ、文にする。こうすると自分の表現したいことを、漢字を使って書くので漢字語彙としても定着する。徳弘（2010 p.130）も、「例えば「山」からイメージを広げたときに、そのイメージに日本語をうまくあてはめていければ、語彙連結だけでなく、概念連結が起こり、言葉だけで追いかけるより、深い記憶へのつながりができると考えられる」と述べている。

3) 漢字の読み換え練習 (5/6)

帰	a	もうすぐ帰国（ ）しようと思っています。
	b	もうすぐ国へ□□□□と思っています。

4) 共通の音符のある漢字の学習（「符・付・府」など） 6/17

5) 「漢字パズル」（共通の漢字をさがす） 【図4】参照

6) 新聞の見出し読み（未習語彙の中の漢字は、*Kanji in context* の索引で探す）
トピックとしては、サッカーワールドカップの記事など。

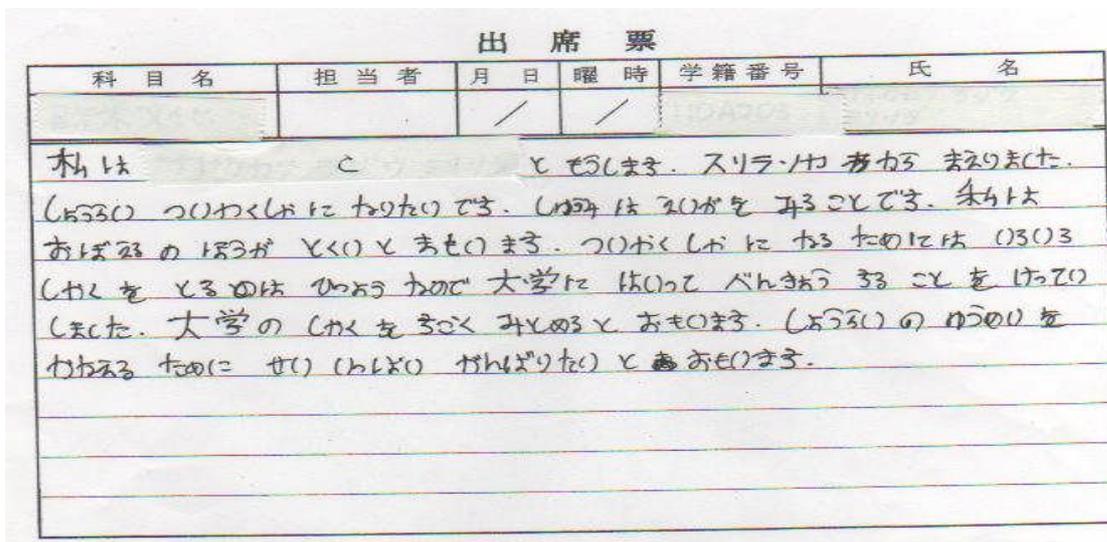
「漢字パズル」の具体例 (図4)

<p>第一水準漢字復習 (1-250)</p> <p>縦の漢字のこゝと横の漢字のこゝに共通する漢字を□の中にひとつ入れなさい。</p>			
例) 親	1. 写	2. 便	3. 好
切	□	□	□
手	理	用	見

3-4. 「問題」学生Cの事例

ここでは、スリランカ人留学生Cの事例について述べる。この学生は、日本滞在5年であり、日本語能力試験2級に合格しているが、学期の始めごろ、漢字はほとんど書けず、また、書きたがらなかった。下の文章は、学期の最初に書かせた自己紹介の文である。

(図5)



ここでは、「勇ましい」友だちのイメージから作文を書き、どんなきっかけでその人と友達になったかが書かれている。これは、学期開始1カ月後の文章であるが、最初の自己紹介の文と比べると、意識してひらがなに気をつけ、漢字も書くように努力していることが分かる。

■学生Cの「新聞見出し読み」

学生Cは、語彙力はあるため、「新聞見出し」の内容はよく理解し、見出しから記事の内容を読み取ることはできていた。ただし、記事内容の説明はほとんどひらがなで書いていたので、漢字に直させた。漢字に書きかえるには、電子辞書で検索して、それを写していた。これは、漢字の書きは覚えていないが、パソコンでは打てるし、認識もできるということである。

3-5. アンケートと振り返り

「応用漢字」の活動を入れた2010年度の講座について、学生にアンケートを書かせた。以下は、質問項目と、その回答のまとめである。

1. 授業の中で役にたったものはどんなことですか。役にたったというものに○をつけてください。

()内の数字は○をつけた回答数/学生数を表す。

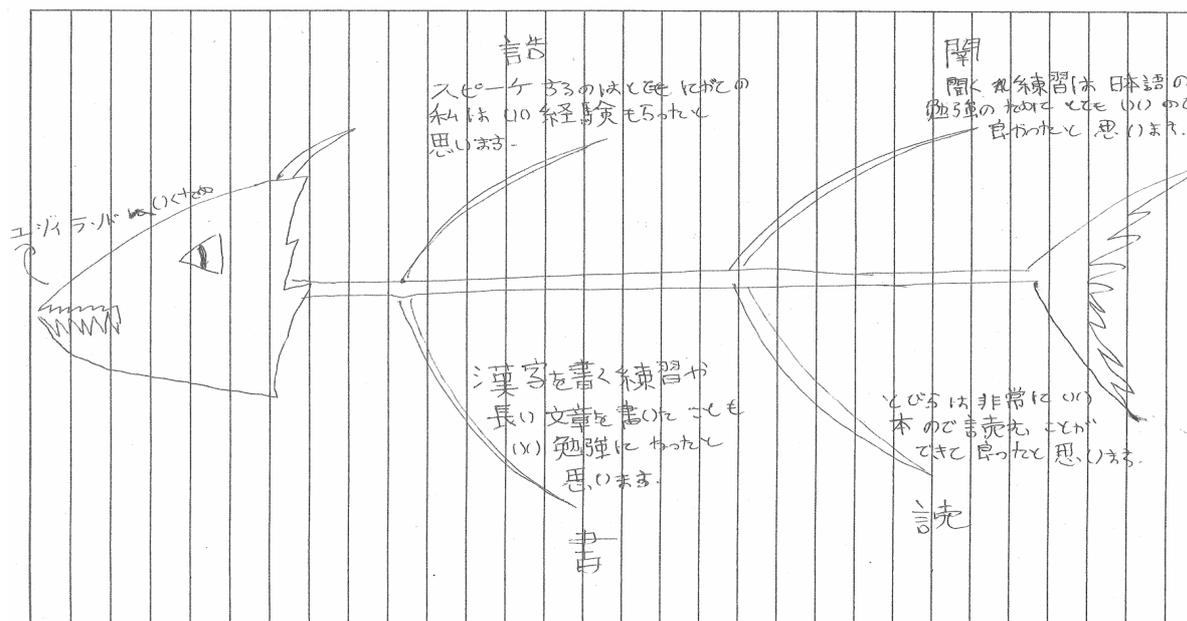
- ①漢字を、水(みず)筆(ふで)を使って書く練習 (4/6)
- ②漢字を空(そら)で書く練習 (3/6)
- ③新しい漢字でわからない漢語の意味(いみ)を説明してもらったとき (4/6)
- ④新しい漢語を使って短い文を作る練習 (5/6)
- ⑤新しい漢字を使った文を読む練習 (3/6)
- ⑥漢字マップを作ってから、漢字を使って作文する練習 (4/6)
- ⑦わからない漢字の調べ方を聞いたとき (4/6)
- ⑧同じ読み方の漢字を調べたとき (4/6)
- ⑨漢字パズルをやったとき(□のなかに入る漢字を見つけるもの) (5/6)

その他：特に役に立ったこと、おもしろかったことがあれば書いてください。

- 漢字を説明する時、絵やその漢字がどういう意味を表すかなどが役に立った。(1/6)
- 漢字は人の形みたいだからおもしろかった。(1/6)
- □に入る漢字を見つけるもの。(1/6)
- 漢字を勉強した結果、メールをして分かるようになった。(1/6)

また、春学期終了時の「表現法」の時間に、自分の日本語能力について「フィッシュボーン図(魚骨図)」によって振り返りをさせた。話す・聴く・読む・書くことに分けて振り返りをさせた。

(図8) 学生Cの「フィッシュボーン図」による振り返り例



この振り返りによれば、Cは、「漢字を書く練習や長い文章を書いたこともいい勉強になったと書いている。

4. まとめと今後の課題

もう一度まとめると、2009年度と2010年度の漢字授業内容の変更点は、以下のとおりである。

- ◆2010年度は、漢字のコマを3コマから4コマにし、応用・復習を行うこととした。
- ◆2009年度は *Kanji in Context* をNo.31から始めたのを、2010年度はNo.221からに改めた。
- ◆2009年度は漢字練習の振り仮名をふる作業を文脈を考えずに行っていることが分かったため、2010年度のプリントの練習問題では、文脈を与え、漢字語彙を選択肢から選ぶ作業を加えた。

要するに、大きな相違は、まず漢字の時間数を増やしたということと、ただ単純に漢字を練習していくだけではなく、応用・復習のセッションでいろいろな角度から漢字をとらえる活動を入れたということである。この結果、学生のアンケートから見ると、新しい漢字語彙を使って漢字シートで作文をする活動と「漢字パズル」が特に評価（6人中5名）されていた。また、「フィッシュボーン図」による学生の振り返りを見ると、Cは漢字を書く練習と長い文章を書くことがいい勉強になった、Bは書くことで前よりも漢字を使って書くようになったと、それぞれ述べている。学習活動の幅とバラエティを増やし、自然な表現練習を提供したことが、学生たちのこのような達成感・自己肯定感につながったのではないかと思われる。

ただ、一方で、F（韓国の学生）は、今でも変わらないこととして、漢字は「覚えても早く忘れてしまう。長期記憶ができない」と述べているので、次の学期では、長期記憶の方法としてイメージで漢字を覚えるⁱⁱことを奨励したい。

また、問題の学生Cは、前より漢字を使って文章を書くようになったが、口頭表現ができてしまうためか、急いだり、面倒になったりすると、ひらがなになってしまうこと、およびまだ漢字の形がきちんと定着していないことが見られた。そこで、今後は、さらに自律的な活動を増やし、自分が興味を持った漢字（たとえば、大学のキャンパスで見られる漢字など）や必要と思われる漢字を集めて解

説させるなどの活動を試みてみたいと考えている。

[参考文献]

- アメリカ・カナダ大学連合日本語研究センター（西口光一・河野玉姫）（1994）『Kanji in Context 中・上級学習者のための漢字と語彙 Reference Book』 ジャパンタイムズ
- 石田敏子（2007）『入門書き方の指導法』 アルク
- 川口義一（1995）「～非漢字系学生の漢字指導の実践例と評価方法の紹介～早稲田大学日本語研究教育センター」『漢字指導アイデアブック』 創拓社 249-306
- _____（2010）「漢字指導の新しい方法—記憶・意味・教授法」 *2010PJPF (Princeton Japanese Pedagogy Forum) Proceedings* Princeton University 1-14
- 佐藤保子・三島敦子・虫明美喜・佐藤勢紀子（2008）『漢字系学習者のための漢字から学ぶ語彙① 日常生活編』 アルク
- _____（2008）『漢字系学習者のための漢字から学ぶ語彙② 学校生活編』 アルク
- ボイクマン総子・渡辺陽子・倉持和菜（2010）『ストーリーで覚える漢字Ⅱ 301-500』 くろしお出版
- 徳弘康代（2005）「中上級者のための漢字語彙の選択とその提示法の研究—学習指導値の設定と概念地図作成の試み—」『日本語教育』 127号 日本語教育学会 41-50
- _____（2010）「概念地図を用いた漢字語彙学習」『日本語教師のための実践・漢字指導』 くろしお出版 129-140
- 徳弘 康代・飯嶋美知子・山田京子・河住有希子（2010）『語彙マップで覚える漢字と語彙中級 1500』 Jリサーチ出版
- 濱川祐紀代【編著】（2010）『日本語教師のための実践・漢字指導』 くろしお出版
- 松浦真理子・上妻直博・半田健一（2009）『Build up your KANJI SENSE 漢字のコツがわかる本』 アスク

i 「フィッシュボーン図」は、別名「特性要因図」とも呼ばれ、日本の品質管理の先駆者として知られている石川馨によって考案されたもので、ある問題点について、影響を及ぼす原因を系統立てて表した図のことである。

ii この学習法については、参考文献欄の川口(1995)pp. 277-289 参照。